



もっこつれんがぞう 木骨煉瓦造

「木骨煉瓦造」とは木材で骨組みを造り、壁の仕上げに煉瓦を用いる建築方法です。西欧の影響を受けた近代の日本に見られるもので、後に骨組みの外側を完全に煉瓦積みで覆う方法が主流となります。初期には骨組みを見せ、その間を埋めるように煉瓦を積む方法が取られました。富岡製糸場は初期の木骨煉瓦造を代表する例です。

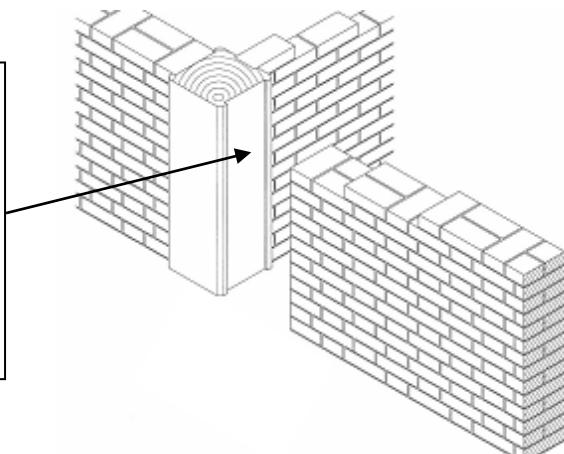
イギリス・フランス・ドイツなどでは、ハーフティンバーと呼ばれる伝統的な木造住宅の建築様式が見られます。これは骨組みを外部に現し、その間を煉瓦や石材、土壁で埋める方法で、木骨煉瓦造の原型とも考えられます。

富岡製糸場内の木骨煉瓦造の特徴のひとつ

→《柱の欠き込み》

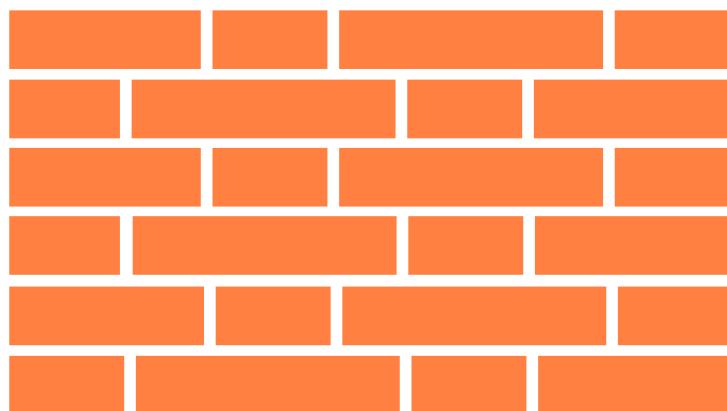
富岡製糸場内の木骨煉瓦造で建築された建物は、基本的に煉瓦の横幅で深さ約15mm程度、柱に欠き込みをして煉瓦を納めています。組み立て順序はまず木材で軸部を組み上げ、その後に煉瓦積みを行ったと思われます。富岡製糸場は、短期間で建設されましたが、この柱への欠き込みのおかげで、柱がゆがんだり、大きな割れがでなかつたのかもしれません。

ちょうど、煉瓦の横幅に合わせて欠き込みがされており、この欠き込みに煉瓦がはめてあります。



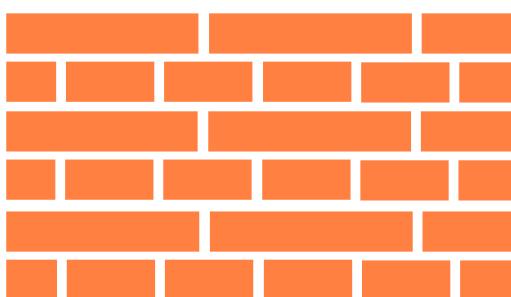
フランス積み

富岡製糸場の木骨煉瓦造の建物に使われている煉瓦は、日本人の瓦職人がフランス人技術者から教わり、焼き上げました。煉瓦の積み方は、煉瓦の向きを長い面と短い面、交互に並べています。この積み方を日本では「フランス積み」と呼んでいます。

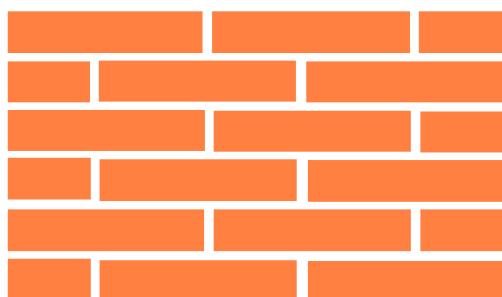


フランス積み

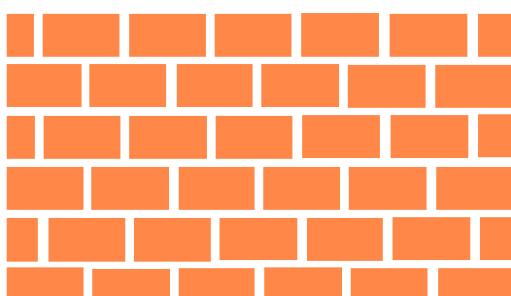
※他にはどんな積み方があるのでしょうか？



イギリス積み



長手積み



ドイツ積み(小口積み)

ほか
他にもいろいろな積
み方があります。
いえ
みんなさんの家のまわ
りには、どんな積み
方がありますか？

